

(様式 2)

大阪市立十三中学校 平成 29 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

| | |
|---|--|
| 評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった | B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |
|---|--|

| 年度目標 | 進捗状況 |
|--|------|
| 【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】 | |
| 全市共通目標 <ul style="list-style-type: none">○ 平成 29 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。○ 平成 29 年度の校内調査における「学校の規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 91%以上にする。○ 平成 29 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。○ 平成 29 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。 | |
| 学校の年度目標 <ul style="list-style-type: none">○ 今年度末の校内調査における「命や人権の尊さについて考えたことがありますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を年度当初よりも増加させる。○ 今年度末の校内調査における「学校外で暴力を受けたことがありますか」の項目について、挙がった事案に対して的確に対応した割合を 95%以上にする。 | |
| 【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】 | |
| 全市共通目標 <ul style="list-style-type: none">○ 平成 29 年度のチャレンジテストにおける標準化得点を、前年度より向上させる。 (標準化得点とは、各年度の調査の本市の平均正答数が、それぞれ 100 となるよう標準化した得点のこと)○ 平成 29 年度のチャレンジテストにおける正答率 3 割以下の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 3 ポイント減少させる。○ 平成 29 年度のチャレンジテストにおける正答率 8 割以上の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 3 ポイント増加させる。○ 平成 29 年度末の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、年度当初より増加させる。○ 平成 29 年度の体力調査において、特に課題である「50m走」の平均の記録を、前年度より 0.05 ポイント向上させる。[28 年度 男子 8.10 女子 9.02] | |

学校の年度目標

- 中学校3年生での英検3・4級程度の英語力を有する生徒の割合を昨年度以上にする。[28年度 92.4%]
- 平成29年度の体力調査における体力合計点を前年度以上にする。[28年度 男子41.15 女子46.03]
- 年度末における部活動入部率を85%以上で維持する。

【以下 淀川区役所連携事項】

- 学力調査における、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の項目における肯定的な回答の割合を昨年度より向上させる。[28年度 「寝る」76.2% 「起きる」95.4%]
- 年度末校内調査における、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の項目における肯定的な回答の割合を年度当初より向上させる。

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|--|------|
| <p>取組内容①【施策6 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>○生徒の安全を確保するとともに、各種の運動用具・運動器具を導入し、体育大会をはじめ各種の学校行事に、室内オリンピックなどの楽しみながら体力向上をめざすことができる取組を積極的に取り入れる。</p> | |
| <p>指標</p> <p>体力調査において、全国平均を上回る種目を過半数にする。</p> | |
| <p>取組内容②【施策6 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>○部活動への参加を促し、日常的な運動の機会を増加させることにより、基礎的な体力や運動能力の向上をめざす。</p> | |
| <p>指標</p> <p>部活動における退部者を5%以内に抑える。</p> | |
| <p>取組内容③【施策6 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>○区役所の「子どもの睡眠習慣改善支援事業（ヨドネル）」とも連携を図りながら、遅刻を減らすよう日常的な生徒指導を継続して基本的生活習慣の確立をめざす。</p> | |
| <p>指標</p> <p><u>遅刻の年間実数および総数を前年度以下に抑える。</u></p> <p>[28年度 2月総数 1,596日]</p> | |

取組内容④【施策 7 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】

- 小中連携図書貸し出し事業の実施
- 「読み聞かせ」の実施
- 図書室開館と自主学習センター機能の充実
(以上元気アップ事業と連携)

指標

学力調査において「1日に30分以上読書をする」と回答する生徒の割合を前年度以上にする。[28年度 23.8%]

取組内容⑤【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】

- エブリディ・ホームワークの実施
- 家庭学習の調査と各家庭における意識づけの啓発

指標

宿題の提出率を前年度以上にする [28年度 90.4%]

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標

**進捗
状況**

取組内容①【施策 2 安全で安心できる学校、教育環境の実現】

面談や家庭訪問、その他、教員が生徒と触れ合う時間を確保し、いじめの早期発見、早期対応を行う。

指標

いじめの申告者数に対する未解決数の割合を前回より減らす。

取組内容②【施策3 道徳心・社会性の育成】

保護者・地域とのコミュニケーションの機会を充実させるとともに、物事に感動したり、他者を思いやることの大切さを実感する場面を創出する。

指標

学校管理下における生徒と保護者・地域ボランティアとの直接交流の場を、のべ50回確保する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点